

**意見交換の概要**  
**(平成 29 年 8 月 2 日(水)・今治市民会館)**

**1. 少子化対策のモデル地域の提供について**

私は去年、起業家甲子園というコンテストに参加したが、それを通してシリコンバレーに行くことができ、学生の立場ではあるが、ビジネスの世界に触れることができた。そのビジネスの世界で戦っているシリコンバレーの人たちは、今、次のビジネスとして、過疎化が進んでいたり、少子高齢化の地域をターゲットにしてビジネスを進めていきたいと考えている人が多くいらっしやった。日本全体でもあるが、特に愛媛県はそういう問題を抱えているし、さっき知事も少子高齢化の対策をしていきたいとおっしゃっていたので、そこで、モデルとしてこの地域っていうのを提供して、どんどん新しい企業、起業家の人たちを呼ぶと、若い人たちがどんどん増えていくんじゃないかなと思う。

**【知事】**

そのシリコンバレーの人たちがネクストビジネスとして、どういうプランニングをしてるかってのはちょっと分からないんだけど、恐らくシリコンバレーなんで、IT を活用したり、あるいはAI を活用したり、そういったものを通じて、過疎化や高齢化に何らかの貢献ができないかっていうことだろうと思うんですね。

地域によってはね、ほんとに面白い取り組みをして成功してる場所もありましてね、これ残念ながら愛媛じゃないんだけど、これ偶然の産物だったんだけど、徳島県のある町に、大きな大きな光ファイバーが通ったのね。ところが需要が全然なくて、何ていうのかな、すさまじい容量なんだけど、全然使われてない。例えば4車線の道路があるのに、数台しか車が走ってない。そんな状況だったんですよ。これをね、何と呼んでたかっていうと、ダークファイバーって言うのね。このダークファイバーを活用したら何かができるんじゃないかっていうことを、その当時の地域の方々が狙いを定めて、何をやったかって言うと、容量がいっぱいあるっていうことはとてもない高速でデータ処理ができるっていうこと。そこに目を付けて、膨大なデータが必要になるのは何だろう。4K、8Kのテレビ開発。いうんで4K、8Kの開発を目指す人たちを、どんどん、どんどん呼び込んだわけ。そしたら今そのほんとに、そうだな愛媛でいったら山の上、久万高原町みたいなところなんだけど、そこに続々と古民家を使ったオフィスが誕生して、僕も1回行ってきたんだけど、土蔵とかがあるわけだね、古民家だから。この土蔵何だろうって中入ったら、驚きまっせって、外は白壁なんだけど、土蔵の中入ったら、超大型のサーバーがあったり、何か異次元の世界になってる。ほんとに若い起業家たちがそこに集まって、古民家の中に入ったらもう、4Kだとかそんなテレビいっぱいあって、みんなバカバカ、バカバカやってる。そういう空間ができてしまうんです。十何社集結し始めて、超高速処理でそこで作り上げたものを東京に送って、あるいは大阪に送って、ビジネスとして成り立ったと、こういう例ですね。そうすると、そこに人が集まったら、若い人たちだったんで、何かおいしいものが常に食べれるようになったらいいねっていうこういう発想ですから。そしたら、じゃあ自分の知り合いに、イタリアン料理やってるやつがいるから声掛けてみよう。その友達が、ある程度人がそろってくるから、しかも古民家を無料のような値段で借りられるっていうんで、じゃあそっちでやろうって言って、おしゃれなイタリアンレストランができたり、そしたら今度フランス料理もほしいとかフランス料理ができたり、こういう、最先端のテクノロジーを活用したまちづくりの方法っていうのはあるんだなというふうに感じました。

たまたまそこはさっき言ったようにダークファイバーがあったからできたということなんだけど、恐らくいろんなやりとり、っていうのは今の通信環境がこれほど整備された時代にあ

っては、ものによっては東京の都会にいる必要はないわけですね。地方にいても十分できるから。そういうジャンルって他にもたくさんあると思うし。もう1つは農業なんかもですね、やり方によっちゃ十分収益が上がる成長産業なんで、それをIT関係、今愛媛県でもずっとやってきてるんだけど、単に今までの農業ではなくて、そこで技術を駆使した、1次産業っていうので伸ばしていくってことを考えれば、人が集まってくる可能性はあるのかなと、ぜひそういう人が知り合いに、もしあればですね、愛媛県につないでほしいと思います。

## 2. 今治商店街の活性化及び高校生にできる取組みについて

今治には、新都市のイオンや、先ほど知事がおっしゃった、しまなみ海道でのサイクリングにより、観光客が急激に増加した。その一方で、商店街は店の数が減少傾向にある。今年、商店街に今治の中高生のひみつきち「F」というところができ、連日多くの中高生が来ている。そしてその「F」で、今商店街をもう一度盛り上げようという動きが出ている。そこで今回「愛顔（えがお）あふれる愛媛づくり」ということで、商店街に笑顔を取り戻すためには、僕たちは何ができると思うか。

### 【知事】

そうですね、実は商店街の活性化っていうのは、全国共通の悩みになってきてますね。昔は、何て言うんですかね、例えばみんなが買い物行くことを想像してもらったら分かりやすいと思うんだけど、昔はお店がなかったんで、どの地域でも物を買うっていうえば、一番身近な地域にある商店街で物を買ってた。ところがそのうちスーパーマーケットというのができたのね。スーパーマーケットは郊外店にできるようになりました。そのときに車社会が訪れた。車に乗って郊外店まで行って、物を買う人たちが増えちゃったんで、その分商店街に来る人たちのお客さんが減っちゃったんですね。そのあとできたのがコンビニエンスストア。コンビニエンスストアがわあっとできて、いろんな商品があるから、ここにも身近な物はコンビニでっていうのが当たり前の時代になってしまったので、商店街で物を買う人が少なくなっちゃった。さらに最近はネットビジネス。インターネットで物を買う人たちが増えてきたんで、当然のことながら、郊外店、あるいはその、コンビニまでまだきてないけど、商店街へ行く人が減ってしまった。要は物を買う場所が豊かになって増えてきたんで、商店街は全国どこへ行っても客足が遠のくという現象が生まれちゃってます。

ただ一方で、商店街っていうのは、町の真ん中にだいたいあるんで、地理的には非常に重要な拠点なんですね。やっぱり町の中心ににぎわいがないと、その地域が何か沈んだようになってしまいうんで、これはもう松山の市長もやらしてもらったけど、松山市長時代から商店街の活性化っていうのは大問題だったんですね。そのときに思ったのは、まずはね、やっぱり商店街の方々が立ち上がるかどうか、ここにかかります。行政何とかしてくれ、そんなんじゃないんで、自分たちで立ち上がるんだと、何とかするんやっていうまず気概がなかったら何やってもうまくいかない。次に、その商店街の人たちが、商店街だからいろんな小っちゃなお店がいっぱい集まってるんだけど、基本的には自分のことを中心に考えてしまいがちなんだけど、ここは壮大なショッピングモールだという、いろんな物がお店があるわけだから、ショッピングモールなんだという意識を共有して、この良さを売り出していこうという気持ちが共有できるかどうか。次に必要なのは特色づくり。人が集まってくる、とにかく人が来てくれなかったら、お買い物するチャンスも生まれないから、人が集まってくるその地域独自のアイデアが出せるか。こういった段々ステップを踏んでいくと、よみがえる商店街っていうのは出てくる可能性もあります。

例えば、松山で言ったらロープウェー街っていうのがあったんですけども、ここはもう死んだ商店街でした。もう駄目だ、駄目だと、みんな無責任で、もう何のエネルギーも感じないんで、

何とかしろ、何とかしろって何もしない。だいたい皆さんがやる気がないところに事業やったって死に金になってしまうから、2年間ほんとに何もしなかったんですよ。そしたらさすがに、そのロープウエーの皆さんも、やらなきゃいけないと、大変なことになるというところまでいって、立ち上がりました。立ち上がって、大きな、大きな賭けに出ました。それは電線を地中化してきれいに整備する、というふうな賭けに出たんですね。大変だったんです。工事期間が3年、2年半かかったんで、その間、お客さん全然来ないんですよ。皆さんほんとにやるとなったら相当な覚悟が必要。2年間、歯を食いしばって耐え切れるかって言ったら、みんなが耐えてみる。耐えてみせる。て言い切ってくれたんで、その期間ほんとに皆さんつらかったけど乗り越えてくれたんですよ。それで今のロープウエー街商店街ができた。その結果、今空き店舗ゼロになりました。交通量が3.6倍に増加しました。それなりに皆さんが人が来るような仕掛けをいろんなイベントを通じて工夫凝らしながらやってるんで、なんか楽しそうな雰囲気になんだよね。その景観、2年半の工事期間を我慢して手にした景観と、それから今言ったように、それを活用しようというエネルギーが合体して、日々日々いろんな仕掛けをするんで、にぎやかで楽しそうな空間だというふうなことで人が集まり始めて、空き店舗がどんどん埋まっていってなくなったと、いう成功例がある。

それを見てて、やっぱり同じだと思っただけでも、さっき言ったように、まずは、まずは商店街の関係者と皆さんの気持ちが全て。そのあとにショッピングモール、空間としてみんながそれを意識して、個々のお店のテリトリーを超えた感覚になれるかどうか。その段階でやる気があれば、若い人の、中学生も来てほしいから、高校生も来てほしいから、ちょっと君らのアイデアちょうだいと言って、必ず出てくると思うんで、そのときに皆さんの出番なんだよね、高校生が行くとすれば、こういうような仕掛けがあったらみんな興味持つんじゃないですか、っていうアイデアを出してもらおう。あるいは今言ったように、どっか借りて高校生の空間つくる。いろんな手法はあると思うんで、ぜひね、せっかくそういうのができているのであれば、じゃあこれを自分たちの代だけで終わらせてはならないと、商店街の人と一緒にこの活性化のために息の長い取組み、後輩たちへもつなげていくような取組みをしようというふうなことで、ぜひ活躍してほしいというふうに思います。

### 3. 国体後の施設の活用方法及び国体時の県民への交通面の影響について

9月30日からえひめ国体がある。その準備で、町で横断幕やのぼり旗が設置されていたり、花いっぱい運動が行われていたり、準備が進んでいるのは目に見えて分かるが、国体に向けて建設された施設や、改装された施設は、国体後どんな活用方法をしていくのか。また、国体があって、他県からたくさんの方が来られると思うが、その、来られたときの、県民への交通面の影響とかの対策などはどうなっているのかお伺いしたい。

#### 【知事】

まず国体っていうのは、愛媛県で行われたのが64年前なので、僕が生まれる前なんで、ほとんどの人が見たこともないですね。実は64年前に行われた国体は、愛媛県の単独の開催ではなかったんです。とてもそんな力はなかったんで、四国での開催になったんです。だから高知県、愛媛県、徳島県、香川県共同開催だった。それぐらいの経験しかないんで、今回初めての単独開催になるんで、相当な準備もしてきました。そもそもじゃあ国体っていつ頃から手を挙げたのかって17年ぐらい前。今年国体やりたいです、って初めて手を挙げたのは17年ぐらい前になります。それから、いろんな県も、この年やりたいこの年やりたいって重なってくるんで、そこでふるいにかけていって、内定というのが出たのは、平成16年ぐらいだったのかな。13年ぐらい前。僕が今の仕事もらったのが今から7年前になります。平成24年に内定が出て、3

年前に正式決定か、いう段取りだったんですね。

一体何をやらなきゃいけないかっていうと、1つには、あらゆる種目、国体っていうのは、日本国内で行われる最大規模のスポーツイベントになるんだけど、正式競技だけで37競技行われます。そのとき全て、例えば水泳連盟とか、ボート協会とか、競技ごとの協会が東京にあって、国体に対応する施設ができない限り認められませんよ。37競技全ての協会にチェックが入って、国体対応の施設になってますっていう確認が取れて初めて決定なの。これはもう、やらざるを得ない。もう1つは、選手監督関係者だけで2万数千人、交流人口だけで70万人から80万人、一定の期間に来るので、受け入れ態勢ができるか、ましてや、天皇皇后両陛下はじめ、皇室の関係者だけで十数人、今治にも多分来られると思いますので。ちなみにまだ正式には決まってないけども、今治地域は恐らく、1番来たいっておっしゃられるのは眞子さまだと思う。なぜかって言うと、以前、上野動物園に野間馬が搬入されました。そのときのセレモニーに眞子さまが御出席されております。今年1月の歌会始で、眞子さまは野間馬を歌われているんです。だから愛媛に来るのであれば、野間馬の産地、現地に行きたいって必ず言われるんじゃないかなと思ってますけども。そういったもろもろの準備をしなければいけない、受け入れの準備。それからもう1つは、どうせやるなら、楽しみたいんで、天皇杯、皇后杯、都道府県対抗の大会になるんで、優勝を目指す。というこの3つをやらなきゃいけなかったんですね。

今の質問は施設のことなんで、ここに絞ってお話をさせていただきますが、そうはいつでも東京都みたいにお金があるわけじゃないんで、ケチケチ作戦で施設の整備をしました。できる限り新設はつくらない。新設つくるとお金かかっちゃいますから、しかも新たな維持管理費用かかりますから。既存の設備を、国体仕様にグレードアップさせるというのを基本に置きました。次に考えたのは、他の県がやっていないケチケチ作戦を、どれだけできるかというアイデア勝負だということで、県庁職員も一体となってですね、みんなでいろんなことを考えまして、例えば、今治で行われる、ボート競技。これまでの国体、去年までの国体では、ボート競技を行う県は、規格艇76艇をそろえなければならない、こういうルールだったんです。でも76艇買ってもそんなに使わないよね。そこで愛媛県が交渉したのは、76艇そろえるのはやぶさかではないんだけど、それ全部を県内だけでは有効活用できないんで、3県で共同購入させてくれと。最初は渋ってたんだけど、何とか認めてもらいました。そうすると何が起こるかという、愛媛県の次の開催県、その次の開催県、3県共同購入しますから、予算3分の1で済む。3年後使い回して、3年経ったら3分の1ずつ受け取ると。こうすれば予算3分の1になるよね。こういったこともやったね。それから、エアライフルっていう競技があるね。エアライフル、ライフル射撃の的を、電子標的に撃つ。この電子標的をいっぱい用意しなきゃいけない。でもそれ終わったら使い道がないんですね。そこで愛媛県どうしたかっていうと、次の県も同じ悩みを抱えているはずだから、次の県に売ろう。次の県に言ったらもう買っちゃってます。その次の県言ったらもう買っちゃってます。その次の三重県に言ったらまだ買ってません。いかがでしょう、約半額で買ってもらいました。これも半分で予算が済むんですね。

1番困ったのはプールだったんです。国体のプールっていうのは、2mの深さがないと認められないんです。でも愛媛県内に2mの深さを持ったプールがないんですね。選択肢としては、もう愛媛無理ですとあきらめて2mのプール持つところに頼んで県外開催するか、あるいは改造して瞬間的に2mのプールを無理やりつくるか、それが仮設でプールつくって終わったら撤去するか、この3つだったんです。国体のプールっていうのは、オリンピックもかなり来ますから、メダリストが。やっぱり1番盛り上がるんですね。だからプールを県外っていうのはあまりにも寂しいということで県外開催は排除しました。次に松山市が持つてるプール、これ1.2mの深さしかないんです。国体はこれ駄目ですと。松山市に言って、工事をして、周辺をブロックみたいな積み上げてかさ上げて、その期間だけ2mにできないかっていう検討をしたんですが、これは思った以上にお金がかかると分かりました。最終的に仮設という道を選んだんですね。

仮設にしても、多分県民の皆さんからお叱りを受けるだろうな思ったのは、終わったあと捨てるのかと、そんなもったいないことするのかって、絶対こうなると思ったんで、再利用何とかできないかと、他の県に売り込みに行ったり、県内の大学に売り込みに行ったり、いろいろやったんだけど駄目。そんなときに南のほうなんですけど内子町という町が愛媛県にあります。この内子町の町営プールがすごく古くなって、新しくする計画があると聞きつけたので、内子町の町長さんと交渉して、引き取ってくれと言ったらOKが生まれて、ただし条件がありますと。2mのプールはいりませんと。安全管理が大変だから。1.2mじゃないと引き取れません。そうするとですね、プールにはFRPという素材でつくるプールと、ステンレスでつくるプールがあるんですよ、素材が。FRPっていうのは若干安めなんだけど、成形、形を変えることができません。将来は産業廃棄物になります。ステンレスだと、ステンレスですから切ってくっ付けるというだけで、形を変えることが容易にできて、産業廃棄物にはならず、最終的には再利用ができる。若干高くなる。っていうことがあったんだけど、全ての条件を比較検討して2mで、しかも松山市の土地をただで借りて、そこに県が工事をして仮設プールをつくる。2mのステンレスのプールをつくる。終わったら速やかに撤去して1.2mに形を変えて、内子町のプールに持って行くと。いうことで段取りをしたんですね。これでだいたい、当初の計画から3億円ぐらい経費の節減ができたことになるんだけど、そんなことを駆使しながら、当初計画費で18億円ぐらい経費は節減できました。そのことで全ての競技において各競技団体から国体対応を受けるという合格点をもらいましたんで、これで国体に備える施設の準備は整ったというふうに思っています。

このあとはですね、この3年後にはオリンピックもあるし、スポーツっていうのは、する楽しさと、見る楽しさと、応援する楽しさと、支援する楽しさと、いろんな楽しみ方があるんですね。しかも、みんなが1つになれるパワーを持ってますから、一過性で終わらせたくない。だから、このあと、国体が終わったら、県庁の中にスポーツ振興部、部局みたいなのを組織としてつくって、スポーツの楽しいイベントやったり、アスリート育てたり、そういうところにも力を入れて、施設の活用を図っていききたいなというふうに思っています。

来県者ね、これはまた頭が痛いんで、さっき言った2つ目の課題なんだけど、実は交通だけじゃなくて、もう1つ悩んでたのが宿泊なんです。一気に来るから。泊まる場所がないよね。しかも国体の場合、宿泊料金は国体で来られる方の宿泊料金はいくらって決められちゃってるんで通常より少し安いので、ホテルとかをまず説得しないといけない。そうはいっても64年ぶりですよ。もう二度と見られないかもしれませんよ。その短期間の利益で目をくらますよりは、もう地域貢献ですよっていうことで、皆さんの理解を得ていきました。その結果、宿泊については、おおむね準備ができました。ただ唯一、唯三、宇和島市と鬼北町と、4つか、西予市と四国中央市、この4つは泊まる場所が足りない。この4つだけは、5年ぶりに国体ではやることになった、民泊をやっていただきます。その地域の方々の家を提供していただいて、選手を迎えていただく。いうことで話が付きましたんで、だいたい宿泊のほうは準備ができました。

問題は移動手段ですね。1番のメインはバスになりますけども、特に開会式の日はどうもすさまじい人が移動しますから、730台のバスが必要だということが分かりました。でも愛媛県にある全てのバスを全部かき集めても、大幅に不足していました。結局どうしたかっていうと、他の県に行って、バス会社に行って、高知、徳島、香川、それから岡山のバス会社をお願いをして、もうそういうことだったらということで、その国体期間中は他県のバスもたくさん走るようになると思いますけれども、何とか七百数十台確保しました。

問題はさっき言った、皇室の方もたくさんお見えになるんで、警備もしっかりしないとイケないんですね。もしものことがあったら大変なことになってしまうんで、交通規制はある程度やらざるを得なくなると思います。ただそれは大きなセレモニー、例えば国体の開会式であるとか、閉会式。そのあと行われる障害者の全国大会であるえひめ大会の開会式、閉会式。ここが中心に

なって、あとは競技場そのものについてはそこまでの混雑はないと思いますから、皇室関係の方が通るときだけは交通規制が入ると思いますけども、あとは普通通りということになるうかと思えます。

#### 4. 海外短期留学による中高生の造船業等の会社見学について

私が住んでいる伯方町では、造船業や海運業が盛んで、シンガポールに進出するほどである。伯方高校でも、造船業や海運業に携わりたいという人が多くいるが、その学生のほとんどは、海外で行われている仕事の内容を知らない。そこで、中学生や高校生を中心に、夏休み等を使って、海外短期留学という形で会社を見学してみてもどうか。そうすることで学生たちに世界という広い視野を持ってもらったり、世界で行われている仕事を知ること、大学等で県外に出た人も、地元へ戻って地元企業に就きたいと思う人が増えるのではないかと考える。

##### 【知事】

実は、海外研修を導入している学校はいくつかあるんですよ。例えば1番典型的なのは、宇和島水産高校。ここは高校自体が、えひめ丸という船を持って、だいたい2年になるとハワイ実習というのが入ります。太平洋を航海してハワイまで行って戻ってきて、将来水産関係や船の関係についてというような教育をやっているところもありますよね。その他には、やっぱり行きたい人がたくさんいた場合、一部の人は基本的には行くことができないので、そのあたりがすごく海外の何ていうのかな、派遣ていうのは難しいところなんですよ。

例えば、市や町によっては、姉妹都市というのが海外にあります。今治がちょっとどうだか忘れちゃったけど、例えば松山市だったら、アメリカのサクラメントってところと、ドイツのフライブルグってところなんで、あと韓国の平澤。その市の単位で、中学生を対象に、夏休みの期間中、ほんとに全員ってわけにはいかないんだけど、予算の範囲内で、限定で海外夏休み体験ていうのをやるっていうそういうところもありました。職業別ていうのは、ちょっと難しいところは、例えば今、今治工業に機械造船科ができて、造船という仕組みの中で、造船会社とタイアップして、そういう制度をつくるっていうのは可能かもしれないんだけど、普通科でどっかの国ていうのはなかなか難しいところがあるので、弓削商船は何かないですか。

##### (参加者)

商船学科だったらハワイに行ったりとかしてます。

##### 【知事】

普通科はない？

##### (参加者)

私は情報工学科なので、そういうのはないですけど、商船学科の場合はそういう研修とか行っています。

##### 【知事】

じゃあ代わりに何ができるかっていうのを考えると、今実はこれはすでに始めているんだけど、中学生、まあ高校も含めてなんだけど、それぞれの地域ごとに、さっき言ったように、特に東予は企業が集積してるんですね。その企業がほんとに世界で勝負しているところたくさんあるんで、例えば職場体験とかですね、職場体験についていろんなビデオ見せてくれたり、海外の状況を直接会社の方から聞くことができたりっていう、これは簡単にできますから、職場体験ていうものを充実させることによって、直接海外行かないにしても、何となく肌感覚で、それが体験できる、直接やってる人たちの意見を聞くということで、カバーできる面があるんで、これだとたくさんの方が経験できると思うんで、1番現実的じゃないかなというふうに思いますね。

実は、これは皆さん高校生ではないんですけど、今年から、中学生を対象に、職場体験にチャ

レンジをするというね、新しい事業を起こしたんですよ。何か職場体験とかいうと、何となくこう硬そうだなとか抵抗感あるなみたいになるんで、名前をおしゃれに付けました。「えひめジョブチャレンジアンダーフィフティーン」っていうんですね。「えひめジョブチャレンジU-15」っていうそういう名前の事業にして、そうすると何か面白そうだなっていう感じがするんじゃないかなと思って、結構中学生が参加してくれています。

ですから、せっかく伯方高校の近くであれば海運もありますし、これはもう学校の先生の気持ちも大事になってくるんで、先生僕らみんなちょっと海運のね、会社見てみたいんですよ、先生何とかしてよって、先生今日来てる？ということだそうでございますんで、それまた教育委員会と相談するっていうのがいいんじゃないかなというふうに思いますんで、どんどん先生にぶつけてみたらええわい、ね、はい。

#### 《補足説明》〔教育委員会〕

伯方高校では、平成 29 年度入学生からグローバル経済コースを新設し、英語、商業、地理、総合的な学習の時間等を充実させ、進学後、地域に戻って活躍する国際的な視野を持ったブームラン人材の育成を図っています。

今後の対応としましては、

##### 1 海外海運業事業所との交流による人材育成

グローバル経済コースの生徒を対象に、インターネットを通じた海運業等の海外事業所との交流や、同窓会の協力を得て実施するシンガポールでの海外企業研修等、地元海運業の発展に寄与する人材の育成に係るプランを企画する。

##### 2 地元海運業事業所でのインターンシップによる職業理解

海運業では、外国語による文書処理等を担当する事務職員等が求められていることから、グローバル経済コースの生徒を対象とした地元海運業事業所でのインターンシップを実施し、海運業に対する生徒の理解促進を図る。

ことを検討しているところです。

(平成 30 年度については、同コース選択生がいないため、次年度以降の実施を予定)

#### 5. 将来県で盛んにしたいものづくり・工業について

今愛媛県では、今治市ではタオルの工業や、造船業が盛んになって、四国中央市では製紙業などがとても盛んであるが、この後、将来愛媛でもっと違うものづくりとかで栄えていきたい工業はあるか。

#### 【知事】

ほんとにあの何て言うんですかね、日本の国っていうのは、20 世紀には加工貿易立国っていう形で発展してます、ね。その原因は何かっていうと、日本って資源がないでしょう。石油も取れないし、ガスもそんなに取れないし、食料も自給率低いし、物がありませんよ基本的に。だから海外から、そういう資源を購入して、それを技術力で、いい物に変えていく。付加価値を付ける。価値を付けて高くした物を海外にまた売って、それで成り立って発展してきた国なんですよ。ところが日本が培ってきた技術というのが、特に韓国や中国を中心に、どんどん流出して、同じようなことをやって、要はライバルどんどん出てきちゃったんで、今までの業態をそのまま維持することが非常に難しくなってきました。それでもなぜ生き残っていくかという、やっぱり技術が全てなんですよ。例えばさっきの紙おむつにしても、ユニ・チャームさんにしても大王製紙さんにしても花王さんにしても海外で売れるのは、やっぱり物が違うんだよね。だからそういう価値をしっかりと見極める人たちが、日本製品を優先して購入するというマーケットがあるんで勝負

ができる。自動車もそうだよね。そういう意味では、技術というのが鍵を握っているのは間違いないです。だから既存の産業が昨日までと同じことを、来年も同じことをやっているというだけで進んでいくと、多分衰退していくと思います。

だとするならば、新しい技術を常に磨き込んでいくということを追い求めていく必要があるんだけど、例えばこれから成長していくだろうと思われるのが、愛媛県の中で言うと、そうだなあ、松前町に東レという会社があります。松山市に帝人という会社があります。ここは昔は繊維の会社だった。今いろんなその化学製品を、ポリ袋とかいろんなものつくってきたんだけど、今新たな分野あって、急成長し始めてますね。それは炭素繊維。炭素を使った繊維ですね。これがなぜ伸びたかっていうと、鉄の半分ぐらいの軽さで、鉄の7倍の強さを持っているという、こういう素材なんです。そうすると今まで使っていたものにとって代われる、しかも効率を上げられるといういろんな分野で可能性が出てきてるんですね。今この炭素繊維、東レの愛媛工場で作ったものが何に使われてるかという、旅客機です。アメリカのボーイング787という最新鋭の旅客機は、この炭素繊維を機体に使ってます。それから今帝人がつくろうとしているのが、自動車への転用なんだよね。自動車のボディにカーボンを使えないか、まだコストが高いんで、なかなか導入されてないんですが、これを使うと今までの車よりも強く軽くということなので、例えば燃費を上げられたり、安全性を増すことができたりという可能性を持つてるわけですよ。こういう分野については、そうはいっても加工する技術が必要になる。いくら鉄からカーボンといっても素材を加工する技術が必要なんで、例えば、今まで、愛媛県では金属関係の加工技術がすごい進んでます。これは造船もそうだし、いろんなものが産業の中で培われてきた技術なんで、その今までの素材に対して使っていた加工技術を例えば炭素に使えないかとか、ここにまた新しいビジネスが生まれるチャンスがある。こういうところには力を入れていきたいなあと思っています。

もう1つはさっきの紙のほうもですね。これはちょっと聞き慣れないと思うけど、セルロースナノファイバーという新たな製品が誕生しようとしています。このセルロースナノファイバーってのは、実は紙でありながら、紙ですから木材からできるわけ。木材をチップにして、こういう加工をしながら、素材にしていくんだけど。実は分かってきたのは紙でありながら、炭素繊維はさっき鉄の7倍の強さって言いましたけど、そこまでいかないけども、鉄の5倍の強さ。炭素繊維よりさらに軽いという素材ができることが分かってきたわけ。ということはまたその炭素の次の素材になっていく可能性がある。このセルロースナノファイバーっていうのは、別途の用途で例えば、その特殊性を活用すると、簡易型の血液検査に使えるということが分かってきた。これは1人でも健康に結び付くマーケットが生まれる可能性がある、という、やっぱり素材を生かした新素材を生かした、産業の育成ってのも1つチャンスがあるということなんです。

それから木材、これもまた新しい技術が生まれようとしています。これも聞き慣れないと思うんですけど、CLTという新しいやり方が今世界中で広がって、日本ももうすぐ許可が下りそうな気配なんです。簡単なことなんですけど今まで木材っていうのは板があって、同じ方向に向けてこう重ねて合板にして太くして柱とかに使う。それを縦、横、クロスさせる。同じ方向でやるよりも、1枚1枚クロスさせたら強度がすさまじくアップするのが分かってきた。海外ではこれが認められていて、今、木造CLTを使った、10階建ての建物まで認可されるようになりました。日本はまだそこまでいってない。でももうすぐ、3階建てぐらいまではOKが出るような方向に今進み始めてるんで、実はそれを見越して西条市に日本で最大規模のCLTの工場、今建築中です。これから来年ぐらいに完成すると思うけれども、そうすると木材の新しい用途とか、需要っていうのが生まれてくるんで、これもまた技術の世界の話なんですけども、新しい産業として成長していく可能性が出てきている。

どこに何が潜んでいるかほんとに分からないと思います。1つですね、愛媛県の県庁にそういう研究センターがあって、そこと今治の会社が実はタイアップしてつくったものがあります。そ



これは電動トライシクルっていう製品なんだけども、日本の国の中では使えません。許可が下りない。アジアではひょっとしたら大化けする可能性があります。アジアの国行くと、三輪のバイクタクシーっていうのがどこの国に行っても走ってます。ガソリンか軽油がどちらか忘れたけども排気ガスが問題。今、まず最初に動いたのがフィリピンという国で、フィリピンのマニラという町が、10万台のバイクタクシーが走ってるんだけども、環境汚染がひどいんで、これを無公害の電動トライシクルに変えたいっていう施策を打ち出した。それを研究していたのが、その今治の会社と愛媛県の研究所だったんでね。製品ができました。去年の1月にチャレンジをしました。10万台いきなりっていうわけにはいかない、3千台の初入札がマニラ政府から発表されます。そこに電動トライシクル愛媛産、工場もこっちにありますけども、愛媛の技術、企業と、研究所で培った技術もある。トライシクル、エントリーしたら取っちゃったんです。3千台。3千台だからね、30億円ぐらいの商談です。これは第1弾なんで、ここでまたいいなと思ったら、第2弾、第3弾で採用が決まっていく。それとフィリピンで成功したら今度アジアへ飛び火していくっていう。こういう壮大な夢を今追いかけ始めているんだけども。そこで大事になってくるのが、素材、新素材と、もう1つあります。技術というものだと思います。これがこれからの、ものづくりの産業の鍵を握っていることは間違いない。そういったものをどんどん行政の面でもバックアップしていきたいなというふうに思います。

## 6. サイクリングと道路整備について

交通に関して、愛媛県ではしまなみ海道などでサイクリングができ、少し前のランキングでも1位と3位とかぐらいである。そんな中でサイクリングする方が増えたり、海外の方も見られたりするようになった。しかし、私も自転車で通学するときも思うが、道路が狭くて危ないところがまだあるので、今後対策していただきたいがどうお考えか。

### 【知事】

愛媛県の場合はですね、ほんとに他の県と比べると、道路の整備にお金がかかっていまして、なぜかっていうと山が多い。ということはトンネルを掘らなきゃいけないんで、それは非常にコストがかかることになるんで、例えば香川県なんか山あんまりないでしょ。平野部が多いから、あつという間にできちゃう。愛媛県は同じ金額を出してもトンネルのほうに費用取られちゃうんで、その分割高になるっていうのは、これは地形的なハンディでしょうがないなということですけども、自転車もいろいろ工夫をして、1番理想的なのは、車道があって、自転車道があって、歩道があって、それが分離しているのが1番安全なのは間違いない。でもそれには膨大なお金がかかるんで、じゃあどうすればいいかっていうことで編み出したのが、まず第1段階として将来的にはそれどんどん徐々にやっていけばいいんだけども、今の段階でいうと、ブルーラインという発想がありますね。今はブルーラインいっぱい引かれているんだけども、あれは自転車を活用してる方だけのために引いてるわけではないんですよ。サイクリングに来たら、このブルーラインに沿って走れば迷うことはありませんよ。探訪スポットを外すこともありませんよ。つという親切な道しるべであるのは間違いないです。もう1つはトラックや、運転している人たちへのメッセージ。ブルーのラインを見たらここは自転車が多く走る場所だから気を付けてくださいね。というメッセージにもなると。この2つの意味合いも含めて設置したのがブルーのラインなんです。今サイクリングだけについて言えば、理想的なサイクリングコースは今の状況の中で走るとすれば愛媛県内どういうふうなものかプロの人たちの力を借りて、26のサイクリングコースをつくりました。その26のサイクリングコースには全部ブルーのラインが今敷いてます。トンネルも、ほんとにはトンネルの中なんだけども、専用の自転車道が1番安全なんだけど、それはすぐにはできないんで、何をやったかっていうと、愛媛県の県内にあるトンネルには全部、

これ注意して見ていただいたら分かるんだけど、でっかい蛍光の看板で自転車に注意っていう看板を一斉に愛媛県は張り巡らせています。長い目でやっていかなきゃいけない問題と、今すぐできることをちょっと分けて、今はこの段階っていうのはやれることをやるということに集中しています。

ちょっと話変わるけども、自転車はね、いろんな仕掛けをしていて、例えばまた皆さんからアイデアもらったらいいなと思うんだけど、今言ったブルーのラインが1つ。それからもう1つはWi-Fiのフリースポット。これをどんどん、どんどん今増やしていて、どこの外国の方が来てもフリーでWi-Fiで情報キャッチができる。それから、パンク修理とか、あと空気入れの貸し出しとか無料でやっていただけるサイクルオアシス登録店のネットワーク。ですから誰が来ても安心して走れるような環境をできるだけ整えたいって言って、考えられるだけのできるだけお金のかからないやり方を今模索しています。

その中でこれは1つの例なんだけど、実はすでにつくってるのが、こういうサイトがあるんですよ。愛媛マルゴト自転車道。例えば、さっき言った26コース全部網羅されてます。コースガイドで例えば26コースのうちしまなみ海道を選びます。しまなみ海道を選ぶと何が出てくるかっていうと、しまなみ海道はこんなコースですよ。地図上でいけばこういうのですよ。高低差、やっぱり上り下りがあるから高低差こうですよ。俺の体力でもいけるかな、私大丈夫かな、そういう情報おすすりスポットはこんなところがありますよ。とびっ切りが、全コース動画が入ってます。このコース走るとこんな風景が待ってますよ。これは実は愛媛でつくってるんですよ。愛媛で。こういう形でここへ来たらこんな素晴らしい風景が待ってるよっていう、この最高画質の動画で全部つくっております。これ実は愛媛県は1円も出してません。愛媛県の取組みに共感していただいた、マイクロソフトという会社の社長が無料で作りましよう。って言ってくれたんです。その代わり、このサイトの運営については愛媛県の障害者の雇用につなげてください。要はこの維持管理を障害者の方々の雇用に結び付けるのであれば、無料でマイクロソフトが全部作りましよう。いうことでつくってくれました。いいものを提供すれば、いろんな協力者が生まれてくるんで、何を進めるにしてもお金さえ出せば何でもできちゃうんだけど、それを費用対効果、ぎりぎりの費用で何ができるかを常に考えていくのも県庁の仕事だと考えてくれたらいいなと思います。

## 7. ドクターヘリコプターの稼働状況について

さっき知事がお話しされた中にもあったが、今年から愛媛でもドクターヘリが運航されるようになり、玉川での交通事故のときにドクターヘリが出動したと聞いたが、その稼働状況はどうか。

### 【知事】

さっき言ったように基本はですね、夜中は飛べないんですよ。暗いときは飛んじゃいけないことになってるんで、基本的に日の出から日没までの間は365日待機しています。常にお医者さんと看護師さん1名ずつ、これは365日ですから交代交代で待機をしてございます。ドクターヘリで出動の判断を下したときは当然のことながら、お医者さんと看護師さん同乗します。その後、数分で現地に行きます。現地に行ったらその場でお医者さんが診断を始めます。担架でヘリコプターですからそこにも簡易機材がありますから、初期治療をヘリコプターの中で行うこともできます。そのまま愛媛県の松山では中央病院、県立中央病院の屋上に着陸をして、そこから担架で運んで、例えばその手術室行くのか、そのやりとりを全部ヘリコプターの中と病院のほうで空中飛びながらやっていますから、できるだけ早く処置ができる体制でドクターヘリコプターっていうのは運用されてます。

今年の2月からスタートしたんだけど、最初はやっぱり初めてのものなんで、皆さんもどうやって頼むのかなって分からないところもあったんで、2月はね、そんなに多くなかったんですよ。数件ぐらいでした。でもだんだん慣れてきましたから、こういう場面ではドクターヘリ呼ばなきゃいけないとか現地で判断するようになったんで、今のところ今年の出動回数は二百二十、三十になります、他の県の様子を見てると、だいたい来年以降は500から550回ぐらいは、要は1日に2回ぐらい出動要請があるというふうに思ったほうがいいのかなというふうなことで、皆さん心構えをしてくれてるんで、それだけ多くの方々が命が救われるんだったら導入したかいもありますし、また関係者の皆さんもやりがいを感じてるんじゃないかなというふうに思ってます。

## 8. インバウンドを対象とした県の観光政策について

訪日外国人、旅行者のことをインバウンドと言うが、愛媛県では現状どのくらいいるか。インバウンドを対象とした観光政策とは主に松山で行われているが、地方では特に行われておらず、これではますます、地域格差は広がる。地方でもインバウンドに向けてさまざまな政策を行ってほしいという意見が出たが、県はどのような対策、政策を考えているか。

### 【知事】

まず外国人を直接呼び込むためには、どのようなルートを整備するかってのは1つの鍵を握ってると思います。それはお金さえ出せば海外路線は飛ばすことは簡単なんですね。でも海外の人たちも今、非常にあのLCCという安い飛行機会社の台頭によって、競争が激しくなってます。その競争の中で飛ばすためには、これはビジネスの世界ですから、簡単に言えばお宅に飛ばしたら何ぼ出すかねいう交渉がどんどん、どんどんハードルが高くなってますね。愛媛県は1回ちょっとね、立ち止まろうというふうになりました。なぜならば、さっき言ったような競争が激しくなってるんで、例えばある県、ある県は、海外に路線を飛ばすために、年間5億円というお金を海外の外国の旅行会社もつぎ込んでる県もあります。愛媛県もそれをやれば、飛ばすことは可能なんだけど、果たして彼らの赤字を保証してまで飛ばすっていいのかな。しかもそれは全部税金、皆さんの納めた税金が海外の会社に行くってことですから、外貨が流出するってことですよ。そこで泊まったお金、宿泊したレストランで御飯食べた、お土産買ったということと、ペイするのかどうか、ここをちゃんと分析した上で戦略を立てないと、取られる一方じゃないかというこういう判断をしました。

今、愛媛県には直接入ってきてるのは、上海、中国東方航空、上海便があります。去年まではソウル便が飛んでました。ソウル便は1回お休みしてます。実は再開の機会をうかがっていたのと、今までとは違ったやり方を模索しようということで、ちょうど今月8月15日から僕はソウルに行ってきます。ソウルで新たな就航の交渉をしてきます。今の段階どうなるか分かりません。どうなるか分からないけれども、インバウンドを中心とする旅行会社なんで、今まではどっちかっていうと、こちらから外へ出て行く向こうに行ってもらうことを意図した航空会社のアプローチだったんで、今度は逆に韓国から来てもらうということを徹底してやりたいという航空会社と交渉してみようと思ったんですね。そのためには松山だけでは駄目なんですね。今海外の旅行のニーズっていうのはかつては東京、京都、大阪というゴールデンルート。あるいは大都市である福岡や札幌。こういったところが中心だったんだけど、そろそろ1周して飽きてきてるのは間違いないんですね。だからこれからさらに日本のインバウンドを増やすためには、ローカルの魅力をどれだけ伝えられるか。そしてそれを体感するためのメニューが用意できるか。そしてそのメニューを体感するためのアクセスを整備できるかどうか。これをしっかり戦略立てていかなきゃならないと思ってます。

そこで今ルートとしては取りあえず今月はソウル。そして松山市長時代からやってきた台湾と

の関係が今すごく深くなっていて、今チャーター便の段階ですけども、将来的には台北あるいは台中からの定期便というところを目指して、今のアクセスを環境整備していきたいというふうに思います。

ただ今はそれとは別に、2年前に中四国で初めて飛ばした成田線が好調でね、松山から羽田ではなく成田行きなんです。これはLCCで、正規料金でいうと、東京ー松山の皆さんが知っている日本の航空会社全日空とか、日本航空は割引制度があるので、実際にはそんなに高くないけど、正規料金っていうと片道3万7千円なんだよね。羽田まで。LCCはどうなってるかっていうと、ジェットスターっていうところなんだけど、1カ月前から予約を開始します。1カ月前に誰もまだその時点でお客さんはいません。一発目のお客さんの場合の価格が低くなってます。1人埋まるとまた上がります。2人目はちょっと上がります。3人目もまた上がります。どんどん、どんどん、どんどん上がって行って、最後の1人が2万5千円ぐらいなんです。1カ月前の1番安いコースは四国にちなんで、4,590円。めちゃめちゃ安いね。これを活用して若い人たちが、ものすごく利用するようになりました。

それともう1つは成田へ到着して、海外から来た人がこのLCCを使って安いルートで松山に来るっていうこういうケースも増えてるんで、そことかみ合わせた上でのインバウンドのアクセスをしていかなきゃいけないというふうに思ってます。実は今回まさに今指摘のあった、松山だけでは駄目だということなんです。今度の交渉相手っていうのは、今はアウトバウンドだけど、どっちかっていうと向こうからのインバウンドのお客を送りたいということなんで、どれだけ魅力的な体験メニューがあるかっていうのが勝負ですって言われてるんです。だから今度僕は1人で行きません。東予の代表として今治市長と、南予の代表として内子町長と、松山市長と3人も来てくれる。東中南予全部にこんなに魅力があるんだっていうのを相手に伝えなければ、今回の交渉うまくいかないんで、そういうふうな交渉も8月15日からやろうというふうに思ってますんで、そのためには、松山はもう慣れてるんですよ。今まで来てますから。南予東予は慣れてないですから、やっぱり行政も海外から来た方々の受け入れ態勢、例えば観光地での多言語化の案内表示の整備であるとか、あるいは宿泊する所の、例えばイスラム圏から来れば食生活が違うんですね。豚肉は一切出しちゃいけない、ハラール食品って言ってますけども、その対応がちゃんとできるかどうか、そういう受け入れの準備をしないと海外の人は定着しないんで、まさに何が大事なのかっていうのを受け入れるからにはそれぞれの市、町でも勉強していただく必要があるっていうことなんで、これを全県下に広げていきたいと思います。

#### 《補足説明》〔経済労働部〕

運休となっていたソウル線の早期再開に向け、韓国最大のLCCであるチェジュ航空の社長に対し、8月16日に、松山市長、今治市長、内子町長とともに「チーム愛媛」でトップセールスを行った結果、11月2日(木)からの就航が決定しました。

松山ーソウル線の再開後約1ヶ月で延べ3,000人もの韓国人旅行者が同路線を利用するなど、高いインバウンド効果が出ていることから、今後も、韓国における本県の更なる認知度向上と誘客促進、県内周遊促進に取り組むこととしています。

## 9. 現在の英語教育に対する考え方及びビジョンについて

知事のお話にもあった県の活性化を行うためには、外国人の方に観光で訪れてもらうことも大事だと思う。今治西高校では、今年度TOEICチャレンジモデル校として、3年生がTOEICを受験させてもらったり、1年生はスカイプを利用して地域の学生とマンツーマンで会話をさせてもらったりとさまざまな英語学習を経験する機会をいただきうれしく思っている。また、先日行われた第22回海外高校生による日本語スピーチコンテストに参加したブルガリア人の女の子が私の家にホームステイをし、彼女は愛媛県を自然が多くてきれいなすごくいい所だと言ってくれ、私自身愛媛県の良さを再認識することができた。そんな彼女が、英語学習には、歌を聞くことや映画を見ることが最適で、何より英語を話す外国人と生で会話する機会を頻繁に設けるべきだとアドバイスをくれた。県内では海外の方と参加するイベントがよく開催され、今治市は海外からのサイクリストが年々増えている。海外研究部に所属している子たちはそのようなイベントに多く足を運び、着実にコミュニケーション能力を磨いているように思うが、部活動をしている生徒はなかなかイベントに参加できず、参加してもやはり慣れていないため、なかなかコミュニケーションを取るのが難しいような状況にある。

そこで、海外の学生が愛媛県を訪れたときに一緒に授業に参加してもらい、お互いの地域のことや世界情勢を英語でクラスのみならず協力しながら話し合ったり、部活動に参加して一緒に活動して、話すことの重要性を多くの生徒が感じたりすることで、1人1人の英語学習のモチベーションが上がると思うが、知事の今の英語教育に対する考え方やビジョンを教えてください。

### 【知事】

そうですね。英検にしても、TOEICにしても、TOEFLにしても、今だに資格というのがかなり重要視するようですね、企業が多くなってきてるんですが、ただTOEICっていうのはどちらかというと、ビジネス英語の世界になってくると思います。企業にとってはすごくウイークポイントになるのかなと思いますけども、何がいいかっていうのは、僕もよく分からないところがあって、ただ自分が高校時代や大学時代に、英語しゃべるか、全然しゃべれないんですよ。だって経験してない。それにもかかわらず、そんなもんは行ったら何とかなる、というので総合商社志望するという無謀な挑戦をしてたんですね。今だったら絶対落とされてますが、当時はどちらかっていうと、総合商社では、語学は何とか仕事しながら覚えろと、それよりも、アフリカだろうが中東だろうが、危なくて衛生環境が悪い国でも、根性で突っ込んで行ける人材が欲しいっていう時代だったんで、そういう採用枠で入ったと思うんですね。今はなかなかそういう時代ではないみたいなんですけども、ただ1つ言えることが、入ってから何とかなるもんだった。それよりも、語学力も大事なんですけども、やっぱり人間を磨くことがもっと大事で、かつ、日本語と日本の歴史や文化というのを知る、知った上で英語が使えたらこれはすごく武器になると思うんですけども、テクニックとしての英語が先行すると、もうほんとに通訳以外ビジネスはできないっていうことですから、そこは気を付けて考えたほうがいいんじゃないかなっていうふうに思います。そういう中で両建てで語学力が身に付けばこれは鬼に金棒で非常にいいことだと思うんで、そういう機会を持つっていうのはとても大事だと思ってます。

だからこそ、実は一昨日、先週行った日本語スピーチコンテストの、あれ責任者がたまたま僕の大学時代の同級生だったんで、愛媛でやってよって言って3年前から愛媛でやってもらってる。あれはみんなにやっぱり日本で海で囲まれてるから、異文化とか言語とか、異なる習慣に接する機会がないんで、刺激を受けるきっかけになればというふうな形で、愛媛での開催にこだわってきた事業なんです。その他にも3年前から福岡に、次世代のリーダー養成塾っていうアジアの学生たちを中心とした会がある。これを愛媛県の代表団送ろうと、ただ、行く子たちにいつも言

ってるのは、君たちだけのためじゃ駄目なんだ。そこで学んだことを帰ってきて、各学校でちゃんと報告してみんなのクラスメートや同級生たちにちゃんと刺激を与える存在であってほしいと、いうふうなことを言ってます。

いずれにしても、これから日本の受験も変わってくるような議論はあるようなので、例えばTOEICだったらTOEICのセンター試験に対応するとかですね、そんな動きも出てきている、こういった部分を見極めながらですね、人間教育と英語のスキル教育を、両方追い求めなければならない中で組み立てを行うと。それからもう1つは語学ではなく、異文化、異言語、異なる慣習をできるだけ多感な若いうちに、こういうふうな社会が、あるいは世界が、あるいは国があるんだっていうことを一瞬でもいいですから体感をして刺激にしてもらいたいなど、そんな仕掛けをこれから続けていきたいと思ってます。

**(参加者)**

昨年私も次世代リーダー養成塾に参加させてもらって、ほんとにいろんな国の方と交流ができて異文化を知ることができていい機会になりました。ありがとうございました。

**10. 県内に理系大学を新設し、企業と連携した地場産業を先行することについて**

愛媛県ではいろいろな産業があり、特に今治市ではタオルや造船業が有名である。その一方で、理系の専門的な分野や工業系の学習ができる環境が十分ではないと思う。愛媛大学に工学部理工学部があるが、あとは県内でそういった専門的知識を得られる場はあまりないのではないかな。東予では工業は盛んで、学んだ知識を生かせる場面が多くあり、また若者たちが活躍できる企業も多いので理系の大学を新設し、企業と連携して地場産業を先行させていただきたい。僕自身は文系であるが、友達からはやっぱり今治でできるだけ就職したいとの声もある。知事はどうお考えか。

**【知事】**

そうですね、大学については愛媛大学っていうのは国立大学なんで、公立なんで、ある程度のいろんな、何て言うのかな、ちょっと私立とは違う取組みも可能な部分があるのはあるんですね。私は完全に民間企業なんで、民間企業っていうのは、どうしてもビジネスの世界になるんで、経営という観点が愛大公立大学以上に入ってきてしまうんで、その中でどれだけ学部のことを考えてるかっていうのは、これはもう大学当事者が考えざるを得ないんですね。例えば私立大学にこれつくれって言ったって、それは全然できないし。もう1つは大学の学部っていうのは全部認可制度になるんで、そう簡単には下りない。今あるものについて新しいものをつくるっていうのはかなりハードルが高いというふうに思います。

その一方で、職業別の技術訓練であるとか、こういったことについては、かなり新居浜にも、そういう学校をつくっていますし、まあ、専門いっても大学ではないんだけど技術っていうのを追求するところについての現場視点でのそういう活動っていうのはかなり進み始めています。

もう1つは愛大の理系、愛大っていうのはもともとは理系が中心で、文系っていうのは法文学部教育学部ぐらいしかない。新しく社会共創学部が去年からできたね。基本はあそこは理系の学校なんで、かなりレベルもいいと思います。ただ当面は県外からもだいぶ来てるようなので、県外の受験生に負けないように押しのけて頑張れと言っといてください。

## 11. 県外へ流出した高校生等が戻りたいと思えるまちづくりについて

知事が道筋をつくられた中国台湾の交流で、しまなみ海道が立地する今治市は現在、サイクリストの聖地として、観光への期待が寄せられている。しかし一方でしまなみ海道の開通は、港町今治の海の玄関口でもあった中心市街地の衰退を招いた。人口規模で愛媛第2の都市にありながら、人口流出者は毎年1千人以上に上り、消滅都市候補に上がるなど将来に不安を抱えている。流出人口の多くは私たち高校生ではないか。

そこで提言したいのは、流出した高校生が今治市に戻りたいと思えるまちづくり、今まで以上の観光振興のためのお手伝いをお願いしたい。例えば海外からの観光客を招くに当たっても、それに対応した受け皿が今治市や関係業者も万全とは言えない。英語、中国語、韓国語表記の看板や、観光パンフレット、観光施設、宿泊施設、交通機関などの観光窓口の人材育成が急がれる。そこへ若い人材をどんどん採用し生かしていただきたくこのための環境整備をお願いしたい。にぎわいが減った今治港に、観光遊覧船の発着や、横浜港に係留された氷川丸のような、廃船となった大型船そのものを海事博物館とするなど、今治市と連携してにぎわいを取り戻してほしいと願う。港町の集客が市、中心市街地の再生につながると考えている。

### 【知事】

ほんとに今指摘のあったとおり減っている要因の1つは、高校生の県外進学、あるいは県外就職、これが大きい要因であることは間違いありません。今実はこれは2年前から始めたんですけども、意外と愛媛県に高い技術力を持って世界を視野に入れて活躍をしている企業が、これだけあるっていうのは知らない学生さんが多いんですよ。そこで、さっき言った「スゴ技」データベースをつくりました。これ学校用にもつくってます。愛媛県はこんな世界一の一流技術を持った企業がこの地域にはあるんだよというデータベースなんですよ、これと学校の先生が連動して、それぞれの地域で地元の企業を見学しましょうとか、地元の企業にどんなところがあるか勉強してみようとか、いうのがリンクしてくれると、若いとき、まだ将来が見えてない多感な時期に、こんなのがあるんだと、だったら地元で社会活動したいなという確率が増えていくというふうにはそこは狙い目としてやっています。

それからすでに出て行ってしまった高校生たちに、今呼び掛けているのは、こういった企業たちに呼び掛けて、合同就職説明会をしよう。合同就職説明会で各企業ブース出してもらおう。学生は愛媛県が呼びかけて集めます。県外出て行ってしまってる子どもたちを積極的に呼び掛けます。県外に出て行ってしまった子たちには、2年前から新たなサービスを提供しました。この愛媛県が主催する合同就職セミナーに出席することを条件に、彼らにとってはふるさとに帰るから、片道の交通費出すと、片道だけね。どうせ帰って来るんだったら、片道浮くよと。その代わり愛媛県の企業のことを知ってよと。というような事業をやり始めて、これをですね、人口を呼び戻すね、1つの切り口の事業として立ち上げています。こうしたような企業の存在によって、就職を促すという手もあれば、もう1つは今あったように、人が来てもらうにぎわいの中で観光に関わる業が拡大している。いうふうな雇用というのはあると思います。

意外とね、愛媛県起業家率が低いんですよ。どっちかっていうと安定志向で、他県なんかと比べると、自分が業を起こしてビジネスをやるっていう、そういう比率が他県と比べると低いってことなんですよ。これは教育の問題でもあるのかもしれない。起業を促すような環境というのが教育の現場にないっていうのも1つの要因なのかなと思ってるんですけども、どちらも選択肢だと思えるんですよ。会社に勤めるもよし、そこで経験した上で起業家を目指すのもよし、それはそれぞれの人生なんで自由だと思うんだけど、やっぱりそういうチャレンジャーがどんどん出てこない、観光、せつかく人が増えても、業にはつながんないのかなというふうには思っています。

ただ最近しまなみ海道自転車で走っていると島下りてですね、去年見たこともないような店がどんどん増え始めていて、最初はね、サイクリストが行っても素通りするだけやって言う人も多かったんだけど、そりゃそうなんだ。何もしなかったら素通り。その人たちが来るということはビジネスのチャンスが訪れる。ということが、来た人にいいものをしっかり準備して、情報発信をし、その情報がマッチングされたときに初めて人が来て、消費活動を起こすというそういう発想がなければ、ビジネスのチャンスにはつながりませんよ。ていうことをずっと言い続けていたんですが、最近そういう感覚を持ったお店や形態が増えてきているので、少し変わってきたのかなというふうには実感してます。

今言った、船を使った海事博物館面白いね。そういう何か地元の造船会社か何かにそれ提案してみてもよ。すごい面白い発想だと思うね。どうせ老朽化した船そのまま放置されるより活用するほうがいいっていうのはあるかもしれないから、ちょっと今治市さんもどう考えているか分からないけど海事都市というようなキャラクターで今、今治市売り出してるんで、それにふさわしいアイデアじゃないかなというふうに思いましたね。とても楽しいアイデアです。

## 12. 地域活性化と生徒数減による高校の統廃合について

現在、たくさんの学校が、地域活性化のための取り組みを行っていると思うが、その中で、少人数で地域と密着のある学校ほど廃校の危機にあると思う。私が通っている大三島分校も再編整備計画によって今年入学者が31人を切ったので、あと2年それが続くと廃校になってしまう。地域から学校がなくなると、その地域は活性化することは難しくなると思う。その地域活性化を掲げる一方で、人数がいないということを理由に廃校にするというのには、少し矛盾点があると思うが、それについて知事はどのように考えているのか。

### 【知事】

とても難しいテーマなんですね。これは高校じゃなくて小学校だったんだけど、中島っていう島で、小学校が3つあったんですよ。市町村合併で松山市になってそのとき市長なんですよ。さあどうしようか、全部複式学級になって、子どもの数が減って、地域としては小学校は絶対なくしたくない。これが大半の声でした。その一方で子どもたちはちょっと分校とは意味が違うと思うんですけど、1つ例として小学校だから、ちょっと遠くまで通ってもいいから、たくさんの友達がほしい。たくさんの先輩がほしい。という意見だったんですね。結局分かれちゃったんです。子どもたちは通うのは遠くになってもいいから仲間がいっぱい欲しい、それが宝物なんです。という声。結局、大人と子どもが話し合って最後どうなったかっていうと、子どもが優勢になったんです。1校になりました。でもそのことによって、学校が活気を持ったんですよ。いきなり運動会やっても今までは2、3人しかいなかったんです。それがたくさんの友だちと出会えて、いろんな行事ができるようになって、地域としては寂しいけども、でも学校に行けば会えるかなという経験をいたしました。これが1点。

もう1校は日浦という小学校なんだけど、こちらもう小学校廃校危機までいったんですよ。地域の人はどうしたか、小学校だけは絶対この山からなくさない。いやなくさないって言われても、今のままでは無理ですと言ったら、我々が立ち上がる、と言うんで、山ならではの特色がある学校づくりを先生と協働して始めました。森の山を使った環境学習に特化した体験であるとか授業であるとか、そういうものを盛り込んだ学校へ進化していきます。さらに町内の方が全員小学校存続のために一世帯いくら、町内会費を上乗せして出して、それを小学校存続のための施策に活用するような仕組みができたんですね。その時点で市にきました。今、この日浦地区だけでは子どもがいないんで、校区外通学をしたい、地域挙げて受け入れ態勢を準備する。さらに校区外から来てもらうためには、バスがいるんでね。バスは何とかしてくれと、っていう話になっ



て、通学用のバスを松山の中心部から山の上まで 30、40 分かかかるかな、用意したんですよ。今では地元の子よりも校区外の子が全然多くなっちゃって、びっくりするような学校へと生まれ変わってしまいました。そのとき感じたことは高校でも同じだと思うんだけど、前者の例はあまり参考にならないかもしれないけど、日浦小学校の例っていうのは非常に参考になるんであって、高校だけで考えてはなかなか脱出できない。でも、地域挙げてやろうという空気、その中で学校とも十分話し合っって特色を持たせる、魅力をつくる、そういうふうなことをやれば、その魅力に引き付けられて来る生徒っていうのは必ず出てくると思います。

今回成功したのが長浜高校なんですね。長浜高校の水族館部。高校生の活躍、これあの水族館部の子たちが世界大会で優勝する快挙を成し遂げて、翌年から受験者がどんどん増えてるというね、そんな例もあるんで、ぜひ地域の人たちの要としてぜひ立ち上がってほしい。

规则的に言うとはんとは昔はですね、3年の猶予もなかったんですよ。もうこの人数だったらもう自動的に統廃合、というふうなことだったんだけど、僕はそのエネルギーを見てきたんで、すぐについでいうのはやめましょうよと、だからこのルールでいくのは数年前からなんです。3年という月日をチャレンジ期間っていうのを設けて、それを1回クリアしたらまた振り出しに戻るという制度をつくったんですね。ですから今回残念ながら大殺界に入ってしまったけども、これを糧にして地域の人たちに呼び掛けて、地域の人たちと一緒に考えて、学校を残すためにみんなで力合わせましょう、という運動につなげていってほしいなと心から願ってます。ぜひ頑張ってください。